

●景観形成基準

(1) 山岳高原景観形成地域

届出対象行為の種類	配慮項目	景観形成基準										
建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観の変更を伴う修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	配置	<ol style="list-style-type: none"> 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、沿道及び隣地相互に空間を確保する。 敷地内に大径木若しくは良好な樹林、樹木若しくは河川、水辺等がある場合又は山並みへの良好な眺望が得られる場合には、これらを生かせる配置とする。 建築物はできるだけ目立たないような位置に配置し、周辺の山々の眺望を阻害しないよう努める。 敷地の許す範囲内で、幹線道路の境界線から5m以上後退するものとする。ただし、清里駅前景観形成ゾーンは除く。 建築物の高さは13m以下とする。 敷地は500㎡以上を基本とし、やむを得ない場合はできる限り500㎡に近い面積とする。ただし、清里駅前景観形成ゾーンは除く。 										
	外観	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="296 719 368 936">規模</td> <td data-bbox="368 719 1441 936"> <ol style="list-style-type: none"> 周辺及び背景となる景観との調和に努める。ただし、周辺の状況並びに市長及び地元住民による景観形成のための組織の意見等により、景観形成上支障がない場合については、この限りでない。 個々の建築物等の規模及び高さは極力抑え、周辺の樹林を超えないようにする。 周辺の山々の眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模及び建築物等と敷地とのバランスに配慮する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 936 368 1305">形態意匠</td> <td data-bbox="368 936 1441 1305"> <ol style="list-style-type: none"> 周辺の山々の背景となる山並みのスカイライン、防風林等の樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努める。特に、周囲にまとまりのある農地、歴史的なまちなみ、集落地その他の街路景観の整っている地域については、隣地及び周辺との連続性に十分配慮する。 屋根の形状は、原則として勾配屋根で適度な軒の出を有するものとし、勾配は、背景の山並み及び周辺の建築物等との調和に努める。 屋上の設備は、外部から見えにくいよう、壁面又はルーバーで覆う等の工夫をする。 屋外階段、バルコニー、配管類等の付帯設備を露出させないような工夫並びに建築物本体及び周辺景観との調和を図る。 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮する。 周辺の基調となる建築物、工作物等に比べて規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫をし、周辺との調和を図る。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1305 368 1592">色彩等</td> <td data-bbox="368 1305 1441 1592"> <ol style="list-style-type: none"> 外壁及び屋根は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の樹林農地及び集落の景観に調和した色調とする。 <ul style="list-style-type: none"> 基調となる色彩は、原則として彩度は2以下とする。ただし赤系（R）、黄系（Y）又は橙系（YR）の色相で、明度が4以下のものについては、彩度を4以下とする。なお、清里駅前景観形成ゾーンについては、彩度、明度の基準は適用しないものとする。 使用する色数はできるだけ少なくなるよう努める。 照明を行う場合は、設置場所の周辺の環境に留意し、過度なものとならないよう留意する。 光源で動きのあるものは、原則として避ける。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1592 368 1738">材料</td> <td data-bbox="368 1592 1441 1738"> <ol style="list-style-type: none"> 外観及び外構には、自然景観及び周辺景観と違和感のあるような材料はできるだけ避け、地域特有の材料又は天然の材料をできる限り用いるものとする。 周辺景観と調和し、耐久性及び耐候性に優れた材料を使用する。 鏡面等の反射光の強い素材は、極力用いないよう努める。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1738 440 2031">緑化</td> <td data-bbox="440 1738 1441 2031"> <ol style="list-style-type: none"> 敷地境界には樹木等を活用し、フェンス、塀等による場合はできるだけ低くし、自然素材を用いる等周辺景観と調和するように配慮する。特に、現状において生垣が形成されている集落の沿道内では、やむを得ない場合を除き、生垣とする。 駐車場、駐輪場等を設ける場合は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努める。 既存の樹木は、可能な限り保存又は移植をし、修景に生かす。 使用する樹種は、周辺の樹林、緑地等又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするよう努める。 できる限り敷地の30%以上の緑地面積を確保する。ただし、清里駅前景観形成ゾーンは除く。 </td> </tr> </table>	規模	<ol style="list-style-type: none"> 周辺及び背景となる景観との調和に努める。ただし、周辺の状況並びに市長及び地元住民による景観形成のための組織の意見等により、景観形成上支障がない場合については、この限りでない。 個々の建築物等の規模及び高さは極力抑え、周辺の樹林を超えないようにする。 周辺の山々の眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模及び建築物等と敷地とのバランスに配慮する。 	形態意匠	<ol style="list-style-type: none"> 周辺の山々の背景となる山並みのスカイライン、防風林等の樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努める。特に、周囲にまとまりのある農地、歴史的なまちなみ、集落地その他の街路景観の整っている地域については、隣地及び周辺との連続性に十分配慮する。 屋根の形状は、原則として勾配屋根で適度な軒の出を有するものとし、勾配は、背景の山並み及び周辺の建築物等との調和に努める。 屋上の設備は、外部から見えにくいよう、壁面又はルーバーで覆う等の工夫をする。 屋外階段、バルコニー、配管類等の付帯設備を露出させないような工夫並びに建築物本体及び周辺景観との調和を図る。 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮する。 周辺の基調となる建築物、工作物等に比べて規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫をし、周辺との調和を図る。 	色彩等	<ol style="list-style-type: none"> 外壁及び屋根は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の樹林農地及び集落の景観に調和した色調とする。 <ul style="list-style-type: none"> 基調となる色彩は、原則として彩度は2以下とする。ただし赤系（R）、黄系（Y）又は橙系（YR）の色相で、明度が4以下のものについては、彩度を4以下とする。なお、清里駅前景観形成ゾーンについては、彩度、明度の基準は適用しないものとする。 使用する色数はできるだけ少なくなるよう努める。 照明を行う場合は、設置場所の周辺の環境に留意し、過度なものとならないよう留意する。 光源で動きのあるものは、原則として避ける。 	材料	<ol style="list-style-type: none"> 外観及び外構には、自然景観及び周辺景観と違和感のあるような材料はできるだけ避け、地域特有の材料又は天然の材料をできる限り用いるものとする。 周辺景観と調和し、耐久性及び耐候性に優れた材料を使用する。 鏡面等の反射光の強い素材は、極力用いないよう努める。 	緑化	<ol style="list-style-type: none"> 敷地境界には樹木等を活用し、フェンス、塀等による場合はできるだけ低くし、自然素材を用いる等周辺景観と調和するように配慮する。特に、現状において生垣が形成されている集落の沿道内では、やむを得ない場合を除き、生垣とする。 駐車場、駐輪場等を設ける場合は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努める。 既存の樹木は、可能な限り保存又は移植をし、修景に生かす。 使用する樹種は、周辺の樹林、緑地等又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするよう努める。 できる限り敷地の30%以上の緑地面積を確保する。ただし、清里駅前景観形成ゾーンは除く。
	規模	<ol style="list-style-type: none"> 周辺及び背景となる景観との調和に努める。ただし、周辺の状況並びに市長及び地元住民による景観形成のための組織の意見等により、景観形成上支障がない場合については、この限りでない。 個々の建築物等の規模及び高さは極力抑え、周辺の樹林を超えないようにする。 周辺の山々の眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模及び建築物等と敷地とのバランスに配慮する。 										
	形態意匠	<ol style="list-style-type: none"> 周辺の山々の背景となる山並みのスカイライン、防風林等の樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努める。特に、周囲にまとまりのある農地、歴史的なまちなみ、集落地その他の街路景観の整っている地域については、隣地及び周辺との連続性に十分配慮する。 屋根の形状は、原則として勾配屋根で適度な軒の出を有するものとし、勾配は、背景の山並み及び周辺の建築物等との調和に努める。 屋上の設備は、外部から見えにくいよう、壁面又はルーバーで覆う等の工夫をする。 屋外階段、バルコニー、配管類等の付帯設備を露出させないような工夫並びに建築物本体及び周辺景観との調和を図る。 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮する。 周辺の基調となる建築物、工作物等に比べて規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫をし、周辺との調和を図る。 										
	色彩等	<ol style="list-style-type: none"> 外壁及び屋根は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の樹林農地及び集落の景観に調和した色調とする。 <ul style="list-style-type: none"> 基調となる色彩は、原則として彩度は2以下とする。ただし赤系（R）、黄系（Y）又は橙系（YR）の色相で、明度が4以下のものについては、彩度を4以下とする。なお、清里駅前景観形成ゾーンについては、彩度、明度の基準は適用しないものとする。 使用する色数はできるだけ少なくなるよう努める。 照明を行う場合は、設置場所の周辺の環境に留意し、過度なものとならないよう留意する。 光源で動きのあるものは、原則として避ける。 										
材料	<ol style="list-style-type: none"> 外観及び外構には、自然景観及び周辺景観と違和感のあるような材料はできるだけ避け、地域特有の材料又は天然の材料をできる限り用いるものとする。 周辺景観と調和し、耐久性及び耐候性に優れた材料を使用する。 鏡面等の反射光の強い素材は、極力用いないよう努める。 											
緑化	<ol style="list-style-type: none"> 敷地境界には樹木等を活用し、フェンス、塀等による場合はできるだけ低くし、自然素材を用いる等周辺景観と調和するように配慮する。特に、現状において生垣が形成されている集落の沿道内では、やむを得ない場合を除き、生垣とする。 駐車場、駐輪場等を設ける場合は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努める。 既存の樹木は、可能な限り保存又は移植をし、修景に生かす。 使用する樹種は、周辺の樹林、緑地等又は道路等の公共空間と調和した地域の風土にあったものとするよう努める。 できる限り敷地の30%以上の緑地面積を確保する。ただし、清里駅前景観形成ゾーンは除く。 											

	その他	神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボルその他の景観資源に近接する場合は、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩及び材料について配慮する。
工 作 物 の新築、 増築、改 築 若し くは 移 転、外観 の 変 更 を 伴 う 修 繕 若 し く は 模 様 替 え 又 は 色 彩 の 変 更	垣、柵、塀 の類	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域特性を勘案して周囲の景観に配慮する。 2 生垣又は石材、木材等天然の材料をできるだけ用い、これにより難しい場合は、これに準じたものとする。 3 できるだけ低くし、形状、意匠及び色彩は、周囲の景観及び建築物本体に調和したものとする。
	電線類、電 柱、鉄塔、 アンテナ の類	<ol style="list-style-type: none"> 1 位置は山岳の景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにする等規模をできるだけ小さくする。 2 電線及びアンテナの類は、できる限り共架に努め、電柱及び鉄塔類の数をできるだけ少なくする。 3 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。 4 色彩については、周囲の景観に配慮した色調を用いる。 5 鉄塔及びアンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽等により遮蔽し、目立たないようにする。 6 鉄塔及びアンテナの類は、敷地の許す範囲内で、幹線道路の境界線から5メートル以上後退するものとする。 7 高さは、30m以下とする。ただし、法令の規定及び公衆に対する危害の防止のため、自然環境に配慮しつつ樹木等との必要な離隔距離を確保しなければならないもの又は市長が景観形成のための組織の意見を聞いた上で景観上支障がないと認めるものは、この限りでない。
	煙突、記念 塔、金属 柱、高架水 槽、彫像の 類	<p>山岳又は高原、樹林、農地、集落又は家並み等周辺及び背景となる景観を損なわないことを基本として、建築物に準じたものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 位置は、道路及び隣地からできるだけ後退させる。 2 高さは、周囲の樹林を超えないようにする等規模をできるだけ小さくする。 3 形状及び意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。 4 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。
遊戯施設、 製造プラ ント、貯蔵 施設、処理 施設の類		
	事業用太 陽光発電 施設（建築 物へ設置 するもの を除く。）	<ol style="list-style-type: none"> 1.太陽電池モジュール（太陽光パネル）の色彩は、黒色若しくは濃紺色又は低明度かつ低彩度の目立たないものを使用する。 2.太陽電池モジュールは、低反射で、模様が目立たないものを使用する。 3.太陽光発電施設等の最上部はできるだけ低くし、周囲の景観から突出しないように配慮すること。 4.太陽電池モジュールの勾配は周囲の景観に調和するように配慮すること。 5.太陽電池モジュールのフレームや架台の色彩は、周囲の景観と調和するように配慮し、素材は低反射のものを使用する。 6.パワーコンディショナー、分電盤、フェンスなどの附属設備の色彩は、周囲の景観と調和するように配慮すること。 7.尾根線上、丘陵地又は高台などへの設置は避けること。ただし、設置する場合は、稜線を乱さないように土地の形状変更は最小限にとどめ、周囲への景観に違和感のないように配慮すること。 8.歩行者及び周囲の景観への影響のあるものは、敷地境界及び道路境界からできるだけ後退し、植栽などにより修景すること。 9.主要な眺望点や主要な道路から見た場合に、茅ヶ岳・瑞牆山、ハヶ岳、甲斐駒ヶ岳及び富士山などへの景観を阻害しないように配置の工夫や植栽などにより修景すること。

土地の形質の変更	<ol style="list-style-type: none"> 1 土地の形質変更は、必要最小限に抑えるものとする。 2 周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面等を生じないように努める。 3 法面を必要とする場合は、できるだけ緩やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木又は草花により緑化する。 4 擁壁は、自然に調和した材料、形態及び意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。 5 残地に現存する樹林、樹木、河川、水辺等は、極力保全し、活用するよう努める。 6 形質の変更の終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。
鉱物の掘採又は土石の類の採取	<ol style="list-style-type: none"> 1 掘採等は、必要最小限に抑えるものとする。 2 掘採等に当たっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置及び方法を工夫し、敷地の緑化に努める。 3 掘採等の終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。
屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積	<ol style="list-style-type: none"> 1 位置は、道路等その他公共の場からできるだけ離すとともに、規模を必要最小限に抑えるものとする。 2 積み上げに当たっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。 3 敷地の周辺は、植栽その他自然と調和した遮蔽措置を講ずるよう努める。
木竹の伐採	<ol style="list-style-type: none"> 1 樹林の保全及び育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。 2 既存の高木及び樹姿の優れた樹木はできるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。 3 道路及び隣地と接する樹林は、できるだけ残す。 4 伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置（植栽等）の実施に努める。